



Sun Java Enterprise System 5 Update 1 リリースノート



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 820-2940
2008 年 1 月

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

Sun Java Enterprise System 5 Update 1 リリースノート

このリリースノート文書には、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) 5 Update 1 についての重要な情報が含まれています。インストール、アップグレード、および操作についての全体的な理解を深めるため、Java ES の使用を開始する前にこのリリースノートをお読みください。この文書は、発生した新しい問題について記述するために必要に応じて更新されます。これらの更新については、4 ページの「[変更履歴](#)」を参照してください。この文書の最新版は Java ES 5 Update 1 のドキュメントコレクション (<http://docs.sun.com/coll/1286.3>) から入手できます。

これは、Java ES の最初の更新リリースです。Java ES 5 では、Java ES に新しいリリースモデルが設けられ、メジャーリリース、マイナーリリース、および更新リリースに対応しました。Java ES 5 Update 1 のような更新リリースは、多くの既存のユーザーによって迅速に導入されるのに適したリリースになるように、バグの修正や、拡張機能の制約付きセットの提供に重点を置いています。まれな例外を除き、更新リリースは以前のリリースと 100% の下位互換性があります。

更新リリースは迅速に適用されることを目的としているため、メジャーリリースやマイナーリリースとは異なる配信メカニズムを使用します。Java ES 5 Update 1 の配信メカニズムについては、6 ページの「[Java Enterprise System 5 Update 1 ソフトウェアの入手](#)」を参照してください。

対象プラットフォーム: この文書では、次のプラットフォーム向けの Java ES について扱います。

- SPARC™、x86、および x64 プラットフォーム版 Solaris 10
- SPARC および x86 プラットフォーム版 Solaris 9
- x86 および x64 プラットフォーム版 Red Hat Enterprise Linux 4 (AS および ES)
- x86 および x64 プラットフォーム版 Red Hat Enterprise Linux 3 (AS および ES)
- PA-RISC 2.0 プラットフォーム版 HP-UX 11i v1
- Microsoft Windows 2000 Advanced Server SP4
- Microsoft Windows XP SP2
- Microsoft Windows 2003 Enterprise Server SP1 (32 ビットおよび 64 ビット)

プラットフォームについての詳細は、[9 ページの「プラットフォームの要件と問題点」](#)を参照してください。

対象コンポーネント: この文書では、Java ES とともに配布され、インストーラを使用してインストールする Java ES コンポーネントについて説明します。Java ES インストーラの以前のバージョンでインストールされ、現在は Java ES Accumulated のパッチクラスタを適用するか、`java_es-5` キーワードが設定された個別のパッチを適用することで維持されているコンポーネントを含みます。その他の方法で配布およびインストールされる Java ES コンポーネントについての情報は提供しません。

説明する内容: この文書では、次の主要なトピックを扱います。

- Java ES の一般的なプラットフォーム要件と問題点
- Java ES の互換性に関する一般的な問題点
- Java ES のインストール、アップグレード、アンインストールに関する一般的な問題点、インストーラおよびアンインストーラとこれらによって配布される Java ES コンポーネント

この『リリースノート』はコンポーネントのすべての使用方法に関連する問題を網羅しているわけではないため、使用する Java ES コンポーネント別のリリースノートにも目を通すことをお勧めします。入手可能なコンポーネント別のリリースノートの一覧については、[5 ページの「コンポーネントのリリースノート」](#)を参照してください。

Java ES 5 Update 1 の新機能については、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 What's New』を参照してください。

変更履歴

バージョン	日時	変更点
11	2008 年 1 月	13 ページの「Java ES 5 Update 1 でサポートされるプラットフォーム仮想化テクノロジー」 の節が追加されました。
10	2007 年 9 月	最終リリース版

コンポーネントのリリースノート

すべてのコンポーネント固有の情報は、各コンポーネントのリリースノートに記載されています。次のコンポーネントのリリースノートは、<http://docs.sun.com/coll/1315.3> から参照できます。

コンポーネント	リリースノート
Access Manager	『Sun Java System Access Manager 7.1 リリースノート』 『Sun Java System Access Manager 7.1 リリースノート (Windows 版)』
Application Server	『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.2 リリースノート (UNIX 版)』 『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.2 リリースノート (Windows 版)』
Directory Server	『Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.2 Release Notes』
Directory Proxy Server	『Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.2 Release Notes』の第4章「Directory Proxy Server Bugs Fixed and Known Problems」
High Availability Session Store (HADB)	『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 8.2 リリースノート (UNIX 版)』の「高可用性」
Message Queue	『Sun Java System Message Queue 3.7 Update 2 Release Notes』 『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 リリースノート (Windows 版)』
Monitoring Console および Monitoring Framework	38 ページの「監視に関する問題点」
Portal Server および Portal Server Secure Remote Access	『Sun Java System Portal Server 7.1 Update 2 Release Notes』 『Sun Java System Portal Server 7.1 Release Notes for Microsoft Windows』
Service Registry	『Service Registry 3.1 Update 1 Release Notes』
Sun Cluster	『Sun Cluster 3.1 8/05 Release Notes for Solaris OS』 『Sun Cluster 3.1 8/05 With Sun Java Enterprise System 5 Special Instructions』 『Sun Cluster 3.0-3.1 Release Notes Supplement』
Sun Cluster Geographic Edition	『Sun Cluster Geographic Edition 3.1 2006Q4 Release Notes』
Web Proxy Server	『Sun Java System Web Proxy Server 4.0.5 Release Notes』
Web Server	『Sun Java System Web Server 7.0 Update 1 Release Notes』

Java Enterprise System 5 Update 1 ソフトウェアの入手

Java Enterprise System 5 Update 1 ソフトウェアを入手する方法は、複数あります。

- すべてのソフトウェアコンポーネントの完全なインストーラバージョンが含まれるダウンロードとして。
- Java ES 5 のすべてのコンポーネントをそれぞれの Java ES 5 Update 1 レベルにするために必要なパッチの累積が含まれる SunSolve のパッチクラスタとして。
- キーワード `java_es-5` で特定される SunSolve の個別のパッチとして。

ソフトウェアを入手するためのこれらすべての方法が、サポートされるすべてのプラットフォームで利用できるとは限りません。次の情報を使用して、使用しているオペレーティングシステムと、すでにインストールしてある Java ES のバージョン (該当する場合) を基に、Java ES 5 Update 1 ソフトウェアを入手する最適な方法を決定してください。

- Solaris 9 および 10

Java ES のバージョン	Java ES 5 Update 1 を入手する方法
なし	使用している Solaris バージョンとハードウェアプラットフォーム用の Java ES 5 Update 1 の完全なインストーラバージョンをダウンロードして、新規インストールを実行します。次に、ダウンロードを解凍し、インストーラを実行します。
Java ES 5	使用している Solaris バージョンとハードウェアプラットフォーム用の累積パッチクラスタを入手して適用するか、または使用している Solaris バージョンとハードウェアプラットフォーム用の個別のコンポーネントのパッチ (<code>java_es-5</code> キーワード付き) を入手して適用することで、Java ES 5 からアップグレードします。どちらの場合も、先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』を確認して、注意しなければならない特別な状況に当てはまるかどうかを調べます。
Java ES 5 以前	先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』を確認して、使用しているコンポーネントを使用しているバージョンからアップグレードする最適な方法を調べてから、Java ES 5 をアップグレードします。

- Red Hat Enterprise Linux 3 および 4

Java ES のバージョン	Java ES 5 Update 1 を入手する方法
なし	Linux 用の Java ES 5 Update 1 の完全なインストーラバージョンをダウンロードして、新規インストールを実行します。次に、ダウンロードを解凍し、インストーラを実行します。

Java ES のバージョン	Java ES 5 Update 1 を入手する方法
Java ES 5	Linux 用の累積パッチクラスタを入手して適用するか、または Linux 用の個別のコンポーネントのパッチ (java_es-5 キーワード付き) を入手して適用することで、Java ES 5 からアップグレードします。どちらの場合も、先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』を確認して、注意しなければならない特別な状況に当てはまるかどうかを調べます。
Java ES 5 以前	先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』を確認して、使用しているコンポーネントを使用しているバージョンからアップグレードする最適な方法を調べてから、Java ES 5 をアップグレードします。
<p>■ HP-UX 11i v1</p>	
Java ES のバージョン	Java ES 5 Update 1 を入手する方法
なし	HP-UX 用の Java ES5 の完全なインストーラバージョンをダウンロードして、新規インストールを実行します。次に、ダウンロードを解凍し、インストーラを実行します。最後に、Java ES 5 からのアップグレードの場合と同様に処理を進めます。
Java ES 5	HP-UX 用の個別のコンポーネントのパッチ (java_es-5 キーワード付き) を入手して適用することで、Java ES 5 からアップグレードします。先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』を確認して、注意しなければならない特別な状況に当てはまるかどうかを調べます。
Java ES 5 以前	先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』を確認して、使用しているコンポーネントを使用しているバージョンからアップグレードする最適な方法を調べてから、Java ES 5 をアップグレードします。
<p>■ Microsoft Windows (すべてのバージョン)</p>	
Java ES のバージョン	Java ES 5 Update 1 を入手する方法
なし	Windows 用の Java ES 5 の完全なインストーラバージョンをダウンロードして、新規インストールを実行します。次に、ダウンロードを解凍し、インストーラを実行します。最後に、Java ES 5 からのアップグレードの場合と同様に処理を進めます。

Java ES のバージョン	Java ES 5 Update 1 を入手する方法
Java ES 5	Windows 用の累積パッチクラスタを入手して適用するか、または Windows 用の個別のコンポーネントのパッチ (java_es-5 キーワード付き) を入手して適用することで、Java ES 5 からアップグレードします。どちらの場合も、先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for Microsoft Windows』を確認して、注意しなければならない特別な状況に当てはまるかどうかを調べます。
Java ES 5 以前	先に『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for Microsoft Windows』を確認して、使用しているコンポーネントを使用しているバージョンからアップグレードする最適な方法を調べてから、Java ES 5 をアップグレードします。

非推奨になった機能と削除された機能

次の告知内容は、Java ES の将来のリリースに適用されます。

- J2SE 1.4 のサポートは、Java ES の次のメジャーリリースで削除される可能性があります。
- Red Hat Linux 3 のサポートは、Java ES の次のメジャーリリースで削除される可能性があります。
- Microsoft Windows 2000 のサポートは、Java ES の次のメジャーリリースで削除される可能性があります。
- Service Registry は、Java ES の将来のリリースで削除される可能性があります。
- Service Registry の Portal Server サポートは、Java ES の将来のリリースで削除される可能性があります。
- Sun Java Studio Enterprise および Sun Java Studio Creator は、Java ES の将来のリリースで NetBeans に置き換わる可能性があります。

このリリースで解決された問題

次の表は、Java ES 5 リリースノートで報告された配布、インストール、およびアンインストールに関する問題のうち、Java Enterprise System 5 Update 1 で解決されたものの一覧です。コンポーネント別の以前のリリースノートで報告された問題のステータスについては、コンポーネントの現在のバージョンのリリースノートを参照してください。

バグ番号	説明
6202902	インストーラが既存のディレクトリインストールにプラットフォームエントリを追加しない
6410218	ノード操作後に C コンポーネントの監視パフォーマンスが低速な場合がある
6412408	「新しいルール」 ダイアログの監視可能オブジェクトのリストが明瞭でない
6429231	Portal Server、Web Server、および Application Server オブジェクトのオブジェクトおよび動作ステータスが不明として表示される
6434241	Application Server の内部設定の変更が Monitoring Console に反映されない
6444357	Monitoring Console でホスト名が表示されない
6446805	Access Manager、Application Server、および Message Queue のローカリゼーションパッケージがインストーラによってアップグレードされない
6463023	サポート対象外の非公開 C API のドキュメント
6481273	監視対象コンポーネントをノードエージェントから配備取消しするとデッドロックが発生する場合がある
6507803	サフィックスのインデックス設定変更を保存すると null エラーが発生する
6517722	Linux で、Application Server に配備されたアプリケーションが <code>Java.security.AccessControlException</code> をスローする(ほかのコンポーネントを Java ES 5 Update 1 にアップグレード後)

プラットフォームの要件と問題点

オペレーティングシステム別のハードウェア要件

Java ES 5 Update 1 をインストールして使用するために必要なディスク容量および RAM は、システムにインストールするコンポーネントによって大きく異なる可能性があります。次の値は、単一システムにすべてのコンポーネントをインストールする場合の最小限の推奨値です。より正確な値を算出するには、システムにインストールするコンポーネントのリリースノートに記載された値を加算します。

オペレーティングシステム	プロセッサ(システム)	ディスク容量	RAM	スワップ領域
Solaris SPARC	UltraSPARC II (Sun Enterprise 250)	6G バイト	4G バイト	RAM の 2 倍の容量、ただし Portal Server をインストールする場合は最低 4G バイト
Solaris x86	Intel Pentium P4 1GHz、AMD Opteron 248 (Sun v20/40/60z)	6G バイト	4G バイト	RAM の 2 倍の容量、ただし Portal Server をインストールする場合は最低 4G バイト
Linux	Intel Pentium P4 1GHz、AMD Opteron 248 (Sun v20/40/60z)	6G バイト	4G バイト	RAM の 2 倍の容量、ただし Portal Server をインストールする場合は最低 4G バイト
Windows	Intel Pentium P4 1GHz、AMD Opteron 248	6G バイト	2G バイト(評価) 4G バイト(本稼働)	ページングファイルに関する Windows のガイドラインに従う

Solaris の要件と問題点

推奨される Solaris アップデートのレベル

Java ES 5 Update 1 は、SPARC および x86 プラットフォームで動作する Solaris 9 および Solaris 10 のすべてのバージョンでサポートされていますが、Sun では次のアップデートを利用することを推奨します。

- Solaris 9: Update 7 (9/04) またはそれ以降
- Solaris 10 SPARC: Update 1 (1/06) またはそれ以降
- Solaris 10 x86: Update 2 (6/06) またはそれ以降

サポート対象の Solaris ソフトウェアグループ

Java ES は、次の Solaris ソフトウェアグループを使用してインストールされた Solaris システム上で動作します。

- SUNWCxall – Solaris ソフトウェアグループ全体と OEM サポート
- SUNWCall – Solaris ソフトウェアグループ全体
- SUNWCprog – 「開発者」 Solaris ソフトウェアグループ

Solaris 10 での最小インストール(6331921)

Java ES は、Sun Cluster または Sun Cluster Geographic Edition をインストールしていない場合は、SUNWCreq(「コアシステム」 Solaris ソフトウェアグループ)または

SUNWCuser (「エンドユーザー」 Solaris ソフトウェアグループ) を使用してインストールされた最小の Solaris 10 システム上でも動作可能です。

SUNWCreq がインストールされた Solaris 10 システムに Java ES 5 Update 1 をインストールするには、次のパッケージを追加します。

SUNWadmc	SUNWpl5u
SUNWadmfr	SUNWxcu4
SUNWadmfw	SUNWxcu6

グラフィカル (GUI) インストーラを使用する場合は、次のパッケージも追加します。

SUNWctpls	SUNWxwplr
SUNWmfrun	SUNWxwplt
SUNWxwfnt	SUNWxwrtl
SUNWxwice	

依存関係の要件を満たすには、SUNWxwplr の前に SUNWxwplt を追加する必要があります。

注 - Java ES は、前述の 2 通りの Solaris 10 最小インストールでテストされています。ただし、Java ES コンポーネントの特定の機能を使用するために、追加のパッケージが必要になる可能性があります。

必要な Solaris 用パッチクラスタ

多くの Java ES コンポーネントでは、適切に動作するために特定の Solaris パッチが必要です。インストーラは、インストールしようとしているコンポーネントに基づいてパッチをチェックし、追加の必要があるパッチのリストを報告します。アップグレードしている場合、またはインストーラの実行前にシステムの準備をしたい場合は、すべての Java ES コンポーネントの実行に必要なオペレーティングシステムパッチがすべて含まれるパッチクラスタをダウンロードして適用することができます。これらのパッチクラスタを入手するには、次の手順に従います。

1. <http://sunsolve.sun.com> にアクセスします。
2. 「パッチやアップデート」をクリックします。
3. 「推奨パッチクラスタ」をクリックします。
4. 使用している OS のバージョンに該当する「Java ES Required OS」で始まるパッチクラスタを検索してダウンロードします。

これらのパッチクラスタには、Solaris カーネルパッチが含まれている場合があることに留意してください。したがって、次の作業を必ず行ってください。

- パッチクラスタの README の内容を熟読します。また、クラスタ内の各パッチ、特にカーネルパッチの README も確認します。

- シングルユーザーモードでパッチクラスタをインストールし、インストール後に再構成再起動 (boot -r) を実行します。一部のパッチがインストールに失敗し、「追加のパッチコマンドを呼び出す前に再構成再起動が必要」と報告された場合は、再起動後にもう一度クラスタをインストールする必要があります。

また、Java ESに必要なOSパッチのほとんどは、最新のSolarisアップデートにすでに含まれていることに留意してください。したがって、最新のSolarisアップデートを実行する前にJava ESインストーラを実行して、適用が必要なパッチを調べ、パッチクラスタ全体をダウンロードする代わりに必要なパッチだけをダウンロードすることができます。

Linuxの要件と問題点

サポート対象のLinuxバージョン

Java ES 5 Update 1 は、x86 および x64 プラットフォーム用の Red Hat Enterprise Linux 3 (Advanced Server および Enterprise Server)、x86 および x64 プラットフォーム用の Red Hat Enterprise Linux 4 (Advanced Server および Enterprise Server)、およびこれらのバージョンに対するすべてのアップデートをサポートします。

Red Hat Enterprise Linux 4 の最新のアップデートを使用することをお勧めします。

x86 版 Red Hat Linux 3 update 8 (AS および ES) では root が有効なユーザーではない (6460658)

Red Hat Enterprise Linux 3 update 8 を実行している x86 システムに Java ES 5 Update 1 をインストールするとき、システムユーザー「root」は認識されません。

解決方法: Java ES をインストールする前に、まず Red Hat のサイトから最新の coreutils-4.5.3-28.4.i386.rpm および coreutils-4.5.3-28.4.x86_64.rpm をインストールします。

HP-UXの要件と問題点

サポート対象のHP-UXバージョン

Java ES 5 Update 1 は、PA-RISC 2.0 プラットフォーム上の HP-UX 11i v1 (uname コマンドを実行すると「11.11」と表示される) をサポートします。

HP-UXで必要なアップグレードとパッチ

Java ES コンポーネントを HP-UX にインストール、設定、および実行する前に、特定のソフトウェアのアップデートおよびパッチをインストールする必要があります。必要なアップデートは次のとおりです。

- Transport Optional Upgrade Release (TOUR) 3.1
- GOLDQPK11i(B.11.11.0509.429) Sept 2005 Quality Pack
 - GOLDAPPS11i(B.11.11.0509.429)
 - GOLDBASE11i(B.11.11.0509.429)

必要なパッチは次のとおりです。

- PHSS_30966
- PHCO_29328
- PHKL_25842
- PHNE_29445

これらのアップデートおよびパッチは、HP IT Resource center (<http://itrc.hp.com>) から入手できます。

Windows の要件と問題点

サポート対象の Windows バージョン

Java ES 5 Update 1 では、次のバージョンの Microsoft Windows をサポートします。

- Windows 2000 Advanced Server SP4 および Data Center Server SP4
- x86 および x64 プラットフォーム用の Windows 2003 Standard SP1 またはそれ以降、x86 および x64 プラットフォーム用の Windows 2003 Enterprise SP1 またはそれ以降、および x86 プラットフォーム用の Windows 2003 Data Center Server SP1 またはそれ以降
- Windows XP Professional SP2

Windows 2003 のサポート対象エディションとして、SP2 またはそれ以降を使用することをお勧めします。

Java ES 5 Update 1 でサポートされるプラットフォーム仮想化テクノロジー

プラットフォームの仮想化は、共有されたハードウェア上に存在する単一の環境で、複数の関連付けられていないゲストオペレーティングシステムを実行する機能です。プラットフォームの仮想化により、多数の利点が得られるため、現在では、さまざまな仮想化テクノロジーおよび仮想化製品を利用することができます。

Sun では、Solaris 10 11/06 で導入された、Logical Domains (LDoms) ソフトウェアを使用して仮想化された Solaris 10 環境で実行する Java ES 5 および Java ES 5 Update 1 コンポーネントの配備をテストおよびサポートしています。

LDoms は、UltraSPARC T1 ベースおよび T2 ベースのサーバーで動作します。LDoms とその機能および要件については、Logical Domains のドキュメントコレクション (<http://docs.sun.com/coll/ldom1.0>) を参照してください。

LDoms 以外の仮想化環境内で、サポートされているオペレーティングシステムに Java ES コンポーネントを配備し、問題が発生した場合は、Sun のサービスが対応する前に、非仮想化環境で問題を再現するようお願いする場合があります。

注 - 非仮想化環境での配備と同様に、推奨されるリソース (プロセッサ、メモリー、ストレージなど) を各仮想マシンに割り当てて、十分なレベルのアプリケーションパフォーマンスを確保するようにしてください。推奨およびサポートされるシステム要件については、コンポーネントのドキュメントを参照してください。

Java ES 5 Update 1 でサポートされる Web ブラウザ

Java ES 5 Update 1 コンポーネントで提供される Web ベースの管理インタフェースは、少なくとも次の Web ブラウザをサポートします。

- Firefox® 1.0.7 (Solaris 9 および 10、Windows 2000 および XP、Red Hat Linux 3 および 4、Mac OS X)
- Mozilla™ 1.7.12 (Solaris 9 および 10、Windows 2000 および XP、Red Hat Linux 3 および 4、HP-UX、Mac OS X)
- Netscape™ Communicator 7.1 (Solaris 9 および 10、HP-UX)
- Netscape Communicator 8.0.4 (Windows 2000 および XP)
- Microsoft Internet Explorer 6.0 SP1 (Windows 2000)
- Microsoft Internet Explorer 6.0 SP2 (Windows XP)
- Microsoft Internet Explorer 7.0 (Windows XP)

Java ES 5 Update 1 コンポーネントで提供されるエンドユーザー Web インタフェースがサポートする Web ブラウザについては、そのインタフェースを提供するコンポーネントのリリースノート参照してください。Java ES 5 Update 1 コンポーネントのリリースノートは、<http://docs.sun.com/coll/1315.2> から入手できます。5 ページの「コンポーネントのリリースノート」も参照してください。

Java Platform Standard Edition (Java SE) の要件

Solaris および Linux で、Java Enterprise System は Java SE 5.0 Update 12 (1.5.0_12) での動作が保証され、このバージョンの Java SE が組み込まれています。また、High Availability Session Store (HADB) を除くすべてのコンポーネントで Java SE 6 での動作が保証されています。HP-UX では、Java Enterprise System は Java SE 5.0 Update 3

(1.5.0_03)での動作が保証され、このバージョンの Java SE が組み込まれています。Windows では、Java Enterprise System は Java SE 5.0 Update 12 (1.5.0_12)での動作が保証され、このバージョンの Java SE が組み込まれています。

また、次の項目は Java SE 1.4.2 と互換性があります。

- 共有コンポーネント
- エンドユーザークライアントアプリケーション
- 公開 Java API

コンポーネントによっては、Java SE のその他のバージョンをサポートする可能性があります。また、Java SE の特定のバージョンに関連する互換性の問題が存在する可能性があります。詳細は、コンポーネントのリリースノートを参照してください。

互換性の問題

次の各項目では、Java ES 5 以前の Java ES リリースに対する Java ES 5 Update 1 の下位互換性に関連する問題点について説明します。ここでは、複数の Java ES コンポーネントに共通する問題点と、Java ES のインストーラまたはアンインストーラに関する問題点を扱います。特定のコンポーネントの下位互換性については、各コンポーネントのリリースノート内の互換性情報を参照してください。コンポーネントのリリースノートの一覧については、5 ページの「コンポーネントのリリースノート」を参照してください。

Java SE 5.0 Update 12 は Application Server 7 と互換性がない (2137473、6203688、6409072)

Java ES 5 Update 1 は、Java SE 5.0 Update 12 (1.5.0_12)で動作保証されています。Java ES インストーラがこのバージョンの Java SE をシステムから検出できない場合、Java ES インストーラによってこのバージョンがインストールされ、Java ES のコンポーネントはシンボリックリンク /usr/jdk/entsys-j2se 経由でこのバージョンの Java SE を利用できます。

Java ES 2004Q2 に付属するバージョンの Application Server 7 はこのシンボリックリンクを使用しますが、Java SE 5.0 Update 12 とは互換性がありません。そのため、Java ES 5 Update 1 コンポーネントをインストールしたあとは、Application Server 7 は正常に機能しなくなります。

解決方法: Java ES では、単一のシステム上にバージョン 2004Q2 とバージョン 5 Update 1 のコンポーネントが混在する構成はサポートされません。システムを Java ES からアップグレードするときは、すべてのコンポーネントをアップグレードする必要があります。アップグレード処理の間に Application Server 7 にアクセスする必要がある場合、次のようにして、Java ES 2004Q2 とともにインストールされた Java SE 1.4.2 の場所を示すように設定を変更できます。

1. Sun Java System Application Server 7 管理コンソールにログインします。
2. 管理サーバーおよびすべてのアプリケーションサーバーインスタンスの Java 設定を更新して、Java ホームが Java SE 1.4.2 の場所を示すように変更します。必ず、すべてのインスタンスに対して「再起動」してください。
3. 管理サーバーを含むすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを停止します。
4. Application Server 7 の config サブディレクトリ内の `asenv.conf` ファイルを編集して、`AS_JAVA` 設定が Java SE 1.4.2 の場所を示すように変更します。
5. Application Server 7 を再起動します。

Java ES 5 Update 1 共有コンポーネントは Instant Messaging の以前のバージョンと互換性がない (6440340)

Java ES インストーラを使用して共有コンポーネントをアップグレードまたはインストールしたあとは、システムにすでにインストールされている Instant Messaging の以前のバージョンは正常に機能しなくなります。これには、Instant Messaging マルチプレクサまたはサーバーが起動に失敗するという現象も含まれます。

この問題は、Java ES 5 Update 1 の Sun Java System Instant Messaging and Presence API (IMAPI) 共有コンポーネントが、Instant Messaging の以前のバージョンと互換性がないことが原因で発生します。Java ES インストーラは、次の場合に IMAPI をインストールまたはアップグレードします。

- Portal Server をインストールする
- Service Registry をインストールする
- すべての共有コンポーネントをインストールまたはアップグレードする

そのため、この問題点はこれらの場合に限られます。

解決方法: Instant Messaging をバージョン 7.2 にアップグレードします。

インストールに関する問題

Java ES インストーラを使用したインストール処理に関連する情報を次に示します。

インストール全般の問題点

Java ES インストーラを使用してコンポーネントをインストールしたあとは、アンインストーラを使用してアンインストールを行う必要がある(バグ番号なし)

コンポーネントパッケージまたはRPMを直接削除した場合、次にインストーラを実行したときにインストーラはコンポーネントがまだインストールされていると認識し、正しく動作しません。

解決方法: コンポーネントパッケージまたはRPMを手動で削除した場合でも、Java ES アンインストーラを使用してコンポーネントをアンインストールする必要があります。

CLIモードで、スワップ空間が不足している場合にも **Java ES** インストーラが処理を継続する (6436570)

Java ES インストーラを実行するシステムに、インストーラを実行するための十分なスワップ空間がない場合、CLIモードのインストーラ(./installer -nodisplay)は、次の内容を含むエラーメッセージを表示したあとも実行を継続します。

```
com.sun.entsys.dre.DREException: Not enough space
```

解決方法: このメッセージが表示された場合、インストーラを終了させてください。その後、インストーラを再び実行する前に、スワップ空間の割り当てを増やすか、既存のスワップ空間の空き容量を確保します。

サイレントモードで、状態ファイルの**ID**が無効な場合に、エラーなしでインストールが失敗する (6585745)

Java ES 5 Update 1 インストーラをサイレントモードで実行していて、無効なIDの状態ファイルを指定した場合(以前のバージョンのJava ESで使用した状態ファイルなどの場合)、インストーラはソフトウェアを何もインストールせず、エラーを報告しないで終了します。インストーラのログファイルには次のようなメッセージが含まれます。

エラーの発生、またはユーザーが警告に対して終了を選択したのでインストールを終了します

解決方法: 状態ファイルのIDをJava ES 5 Update 1 インストーラが生成した有効なIDで置き換えます。IDを生成するには、次のコマンドを使用します。

```
./installer -id
```

—no オプションを使用すると、インストールを停止した場合に **InvocationTargetException** がスローされる (6592472)

—no オプションを指定してインストーラを実行していて、「インストール中」ページでインストールを停止すると、インストーラが終了し、**InvocationTargetException** がスローされます。

```
InvocationTargetException thrown in method cancelConfirmed in class
com.sun.wizards.core.WizardTreeManager
java.lang.NullPointerException
    at ...
```

解決方法: なし。

Solaris 10 で、完全ルートゾーンでのインストールが失敗する (6451030)

Solaris 10 の旧バージョンで、完全ルートゾーンに Java ES をインストールすると、インストーラに次のいずれかのメッセージが表示されます。

```
Unsupported components in zone
Following components required by the selected components, are not
supported in local zone and they can not be installed directly into
the local zone. Please install these components from the global zone
before proceeding the installation
```

```
    SharedComponent
```

または

```
The Sun Web Console packages that are installed on your system
have a defect that is preventing Java ES from installing in a
while root non-global zone. In order to rectify this situation
you must upgrade the Sun Web Console packages in the global zone
before installing Java ES in a whole root zone. Please see the
Java ES Release Notes (bug 6451030) and Installation Guide for
further information.
```

どちらのメッセージも、インストール済みの Sun Java Web コンソールパッケージに不正な属性設定が含まれており、それによってインストーラがパッケージをアップグレードできないために表示されます。この不正な属性設定が含まれる Sun Java Web Console パッケージは、Solaris 10、Solaris 10 1/06、Solaris 10 6/06、および Java ES 2005Q4 と一緒に出荷されました。

解決方法: この問題を解決するには、完全ルートゾーンに Java ES をインストールする前に、大域ゾーンの Sun Java Web コンソールをアップグレードする必要があります。次の2つの方法があります。

- 大域ゾーンでインストーラを実行し、「すべての共有コンポーネント」のみをインストールします。これにより、Sun Java Web コンソールパッケージがアップグレードされ、ゾーン属性が修正されるほか、大域ゾーンにその他すべての Java ES 5 共有コンポーネントがインストールされ、非大域ゾーンに伝播されます。この方法は、状況によっては利用できないことがあります。以前のバージョンの Java ES を完全ルートゾーンにインストールしている場合は、推奨されない方法です。
- 大域ゾーンで、Sun Java Web コンソールパッケージのみをアップグレードします。この処理を行うには、大域ゾーンにログインし、Solaris の Java ES 5 インストールディレクトリに移動します。スーパーユーザーとして、次のコマンドを実行します。

```
cd Product/sunwebconsole
./setup
```

setup スクリプトが、大域ゾーンで Sun Java Web コンソールをアップグレードし、アップグレードをすべての非大域ゾーンに伝播します。

Solaris 10 で、疎ルートゾーンでインストールすると、大域ゾーンでバンドルされた **Application Server** の存在が報告されない (6512640)

Java ES を疎ルートゾーンでインストールするとき、疎ルートゾーンへのインストール前に、インストーラは大域ゾーンにアップグレードする必要があるコンポーネントがあるかどうかを大域ゾーンでチェックします。しかし、Solaris 10 にバンドルされている Application Server のバージョンは、アップグレード対象コンポーネントとして報告しません。

解決方法: Java ES を疎ルートゾーンにインストールする前に、大域ゾーンでインストーラを実行し、「アップグレード可」であると示されたら Application Server をアップグレードするようにします。

Solaris 10 で、完全ルートゾーンのブート時に **Web Console** エラーが表示される (6584536)

Java ES をインストールするときに、インストーラはシンボリックリンク `/usr/jdk/entsys-j2se` を作成し、コンポーネントが同じバージョンの Java SE にアクセスできるようにします。Java ES コンポーネントを大域ゾーンにインストール後、完全ルートゾーンをブートしようとしたときに、Web Console に関するエラーを受け取ることがあります。これは、Web Console パッケージが完全ルートゾーンに伝播されているにも関わらず、依存しているシンボリックリンクは伝播しないためです。

解決方法: 大域ゾーンで次のコマンドを入力して、完全ルートゾーンにシンボリックリンクを手作業で作成します (大域ゾーンにインストールされているバージョンが Java SE 5 であると仮定)。

```
ln -s /usr/jdk/instances/jdk1.5.0 zone-path/root/usr/jdk/entsys-j2se
```

ここで `zone-path` は、完全ルートゾーンの作成時に指定したパスです。

HP-UX で、Java ES インストーラのパフォーマンスに問題がある (6472918)

Java ES インストーラは、HP-UX のデポ機構と相互作用してインストール済みコンポーネントを検索し、依存関係を確認し、ビットをインストールします。デポ機構のクライアントサーバーアーキテクチャーによりシステム応答時間が遅くなり、相互作用が繰り返されると、ほかのプラットフォームに比べてインストールプロセス全体が著しく低速化します。

解決方法: なし。

Linux および Windows で、コンテナを Tomcat から Application Server にスワップ後、Web Console が起動できない (6534739、6566515)

Web Console が配備するコンテナを Tomcat から Application Server にスワップするために `wcswap` コマンドを使用する場合、Application Server で Web Console 用にドメインが作成されていないため Web Console を起動できません。

解決方法: Linux または Windows で、Application Server を Web Console のコンテナとして使用しないでください。コンテナとして Application Server へのスワップをすでに試行した場合は、Web Console のコンテナとして Tomcat に次回スワップするために `wcswap` コマンドを使用できます。

Windows で、インストーラが Sun Java Web Console の既存インストールを検出しない (6487548)

解決方法: 次のいずれかの回避方法を使用します。

- Java ES 5 のインストールを続行する前に、Windows マシンにすでにインストールされているバージョンの Sun Java Web Console を削除します。
- 以前のバージョンの Sun Java Web Console に登録したアプリケーションを引き続き使用するには、新しいバージョンの Web Console に登録し直します。

Windows で、RAM メモリーが 1G バイトのマシンでインストールが予期せず失敗する (6496578)

Windows プラットフォームで、すべてを「インストール時に自動的に設定」モードでインストールすると、メモリーの少ないマシンでの設定後の作業段階で原因不明の失敗が発生します。

解決方法: 次のいずれかの回避方法を使用します。

- Windows OS の仮想メモリー設定を最適化します。

- Java ES インストーラを起動する前に、不要なプログラムやサービスをすべて停止して、RAM の空き容量を最大化します。
- 「カスタム」オプションを使用して、インストールする製品を選択します。

Windows で、Windows System32 からの DLL が Java ES DLL と競合する (6496600)

この問題は、libnspr4.dll、nss3、smime など特定の DLL が Windows system32 フォルダに存在する場合に発生します。

これらの DLL が、install-dir/share/lib にインストールされる Java ES バージョンの DLL と衝突するため、Java ES サーバー群の正常な動作が妨げられます。

解決方法: Java ES サーバーで正しいバージョンの DLL が使用されるように、system32 フォルダ内の該当する DLL の名前を変更します。

注 - DLL の名前を変更すると、system32 フォルダにそれらの DLL をインストールした旧バージョンのアプリケーションが機能しなくなる可能性があります。

Windows XP SP2 で、インストール後にユーザーが Web Console にログインできない (6498436)

解決方法: Windows XP Professional でゲストアカウントを無効にする必要があります。

認証が成功するためには、レジストリキー

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Lsa\ForceGuest を 0 に設定する必要があります。

ファイル記述子の制限値が小さいことが原因でインストーラがコンポーネント設定エラーを報告しない (5018734、6523904)

ファイル記述子の制限値の設定が小さすぎる場合、一部のコンポーネントを正しく設定できません。このような設定エラーはインストーラによって報告されませんが、設定ログファイルには記録されます。

解決方法: インストールの前に、ファイル記述子の制限値を 1024 や 2048 などの大きい値に設定します。インストールの終了後、ファイル記述子の制限を元の値にリセットすることができます。

製品ライセンスが評価版である場合、Java ES インストーラには製品版に置き換えるメカニズムが必要である (6265136)

インストーラは、共有コンポーネントが評価コンポーネントかどうかをチェックし、実際に評価コンポーネントである場合には置き換えられるべきですが、その置き換えを実行しません。評価コンポーネントである場合には置き換えるべきです。

解決方法: インストールを開始する前に、ワークステーションに評価コンポーネントがインストールされていないことを確認してください。

インストールログメッセージは、常に有効であるとは限らない (バグ番号なし)

ログメッセージは常に有効であるとは限らないことに留意してください。たとえば、ある種のエラーが発生したあとに、コンポーネント製品の (全部ではなく) 一部がインストールされていても「ソフトウェアがインストールされていません」というメッセージが表示されます。

コンポーネント選択ページのコンポーネントの自動選択が紛らわしい (4957873)

コンポーネント製品を選択すると、依存するコンポーネント製品をインストーラがすべて自動的に選択します。コンポーネント製品選択ページには、元のコンポーネント製品とともに依存関係にあるコンポーネント製品が選択されていることが示されません。

解決方法: なし。

一部のロケールでは、インタフェースのウィンドウの幅が狭すぎる (4949379)

ドイツ語などの一部の言語にはウィンドウが狭すぎ、インタフェース全体が表示されません。その結果、ヒントなどのテキストの右側または下部が表示されません。

解決方法: ウィンドウのサイズを手動で変更します。

Access Manager のインストールに関する問題点

HP-UX で、Access Manager インストーラが `gettext` バイナリを見つ けられない (6497926)

HP-UX に Access Manager をインストールするとき、Access Manager が `gettext` バイナリを見つけれないというメッセージが表示され、インストールが失敗します。

解決方法: `gettext0.14.6` またはそれ以降をダウンロードしてインストールします。

Access Manager SDK 設定が原因で Web サーバー起動障害のエラーが発生する (6293225)

Web サーバー起動障害の問題は、Access Manager の SDK 設定が原因である可能性があります。現在の配備環境で、AMConfig.properties ファイルに間違った情報が含まれていると、一連の Web サーバー起動障害が発生します。次の変数の情報が正しくありません。

- com.iplanet.am.directory.host
- com.iplanet.am.server.host
- com.iplanet.am.console.host
- com.iplanet.am.profile.host
- com.iplanet.am.naming.url
- com.iplanet.am.notification.url

解決方法: Access Manager SDK が Web Server とともにインストールされているノードで、<Web_Server_Instance_dir>/config/server.xml ファイルを修正して、必要な Access Manager JAR ファイルをクラスパスに追加します。

既存の DIT 上に Access Manager をインストールすると、Directory Server インデックスの再ビルドが必要になる (6268096)

検索のパフォーマンスを改善するために、Directory Server にはいくつかの新しいインデックスが用意されています。そのため、既存のディレクトリ情報ツリー (DIT) を使用して Access Manager をインストールしたあとは、db2index.pl スクリプトを実行して Directory Server インデックスを再ビルドしてください。例: # ./db2index.pl -D "cn=Directory Manager" -w password -n userRoot

db2index.pl スクリプトは DS-install-directory/slapd-hostname/ ディレクトリにあります。

SSL を有効にした Directory Server を使用した Access Manager のインストール (バグ番号なし)

Directory Server がすでにインストールされていて、LDAPS (SSL) のみが有効になっている場合、Access Manager のインストールは失敗します。Access Manager をインストールするには、まず Directory Server に対して LDAP (SSL なし) を有効にします。Access Manager のインストール終了後、LDAP を無効にして LDAPS のみを残すことができます。

パスワードおよびルートサフィックスで単一引用符を使用できない (バグ番号なし)

Access Manager は、パスワード (amadmin 用など) および Directory Server ルートサフィックスでの単一引用符をサポートしません。ただし、バックスラッシュはサポートします。

Directory Server でパスワードリセットが有効になっている場合に、Access Manager のインストールが失敗する (4992507)

Java Enterprise System インストーラを実行する際に、Directory Server の設定でユーザーが初めてログインしたときにパスワードを変更することが必要になっている場合、Access Manager のインストールは失敗します。

解決方法: Directory Server のパスワードリセットポリシーを「off」に設定します。

Access Manager と Directory Server を別のマシンにインストールすると、認証サービスが初期化されない (6229897)

インストール時に classpath およびその他の Access Manager Web コンテナ環境変数は更新されますが、インストールプロセスでは Web コンテナが再起動されません。インストール後、Web コンテナが再起動する前に、Access Manager にログインしようとする、次のエラーが返されます。

```
Authentication Service is not initialized.  
Contact your system administrator.
```

解決方法: Access Manager にログインする前に Web コンテナを再起動します。ログインする前に、Directory Server も実行している必要があります。

Access Manager が Application Server の domain.xml を更新しない (6439597)

Access Manager が、Application Server の domain.xml の JVM オプションおよびサーバークラスパスを正しく更新しません。これは、次のような処理を行った場合に発生することが確認されています。

1. Application Server および Directory Server をインストールして設定する。
2. ノードエージェントを作成する。
3. デフォルト以外の Application Server インスタンスを作成する。
4. Access Manager を「あとで設定」モードでインストールする。
5. `amsamplesilent` ファイルを編集し、`amconfig` を使用してそのファイルを実行する。
6. ブラウザを使用して Access Manager にログインしようとする、エラーメッセージが表示される。

解決方法: Access Manager をインストールする前に、`amsamplesilent` ファイルを編集して、Application Server の設定箇所を次のようにします。

```
AS81_HOME=/opt/SUNWappserver/appserver  
AS81_PROTOCOL=$SERVER_PROTOCOL  
AS81_HOST=$SERVER_HOST
```

```
#AS81_HOST=$DISTAUTH_HOST
AS81_PORT=$SERVER_PORT
AS81_ADMINPORT=$ADMIN_PORT
AS81_ADMIN=admin
AS81_ADMINPASSWD="$ADMINPASSWD"
AS81_INSTANCE=server1
AS81_DOMAIN=domain1
AS81_INSTANCE_DIR=/var/opt/SUNWappserver/nodeagents/nodename/server-instance
AS81_DOCS_DIR=/var/opt/SUNWappserver/nodeagents/nodename/server-instance/docroot
AS81_ADMIN_IS_SECURE=true
```

編集が終了したら、`amconfig` コマンドを実行します。

```
./amconfig -s amsamplesilent
```

Application Server のインストールに関する問題点

ドメイン管理サーバーのインストール後に、ノードエージェントがインストール済みで互換性があると表示される (6379283)

Application Server ドメイン管理サーバーをインストールした場合、以降のインストールセッションで、Application Server ノードエージェントがインストール済みで互換性があると表示されます。この問題は、ドメイン管理サーバーおよびノードエージェントが同じパッケージセットを使用し、設定のみが異なることが原因で発生します。

解決方法: なし。ノードエージェントをサポートするためのソフトウェアはインストールされています。ノードエージェントを作成するには、`asadmin create-node-agent` コマンドを使用します。詳細は、`create-node-agent(1)` を参照してください。

インストーラが、ユーザーが設定ページで入力したホスト名を認識しない (4931514)

インストーラは、Application Server の「サーバー名」の入力を要求します。ただし、テキストフィールドに何を入力しても、インストーラはマシンの実際のホスト名を使用します。

解決方法: サーバー名がサーバーのホスト名と異なる場合は、スーパーユーザーになり、該当するドメインディレクトリ(「サーバールート」ディレクトリ)で次のように入力します。

```
# find . -type f -exec grep -l $HOSTNAME {} \;
```

次に、ファイルの内容を適切に変更します。

Linux でドメインを起動できない (6396102)

Linux でドメインを起動しようとする、libstdc++ を参照する例外が生成されます。これは、Application Server が Linux 上で、デフォルトではインストールされない特定の互換性のあるライブラリを必要とすることが原因で発生します。

解決方法: 次の互換性のあるライブラリをインストールします。

- `compat-gcc-7.3-2.96.build.i386.rpm`
- `compat-gcc-c++-7.3-2.96.build.i386.rpm`
- `compat-libstdc++-7.3-2.96.build.i386.rpm`

これらのライブラリはデフォルトではインストールされませんが、Red Hat Linux のディストリビューションに含まれています。*build* の値は Red Hat Linux のバージョンによって異なる場合があることに留意してください。

Windows で、HADB インスタンスが Application Server で起動していない (6480152)

Windows マシンがネットワークに接続されていないと、HADB インスタンスは起動しません。

解決方法: Windows マシンをネットワークに接続します。

Directory Server のインストールに関する問題点

Solaris 9 へのインストール後に 2 つのバージョンの Directory Server が存在する (バグ番号なし)

Solaris 9 には Directory Server 5.1 がバンドルされます。したがって、Java ES 5 Update 1 から Directory Server をインストールしたあとは、2 つのバージョンがシステム上に存在します。Solaris 9 に含まれるバージョン 5.1 と、Java ES に含まれるバージョン 6.2 です。

そのようなシステムで Directory Server を使用するときは、必ず、管理しようとする Directory Server のバージョンと関連付けられたコマンドセットを使用する必要があります。

Solaris 10 で、Directory Server Control Center が実行中であっても接続できない (6590078)

Solaris 10 08/07、または Solaris パッチ 120037-19 (x86) または 120473-10 (sparc) またはそれ以降が適用された Solaris 10 システムを実行している場合、Directory Server Control Center に接続しようすると、次の形式のエラーを受け取ることがあります。

Could not contact the DSCC agent on *hostname*. Use the command `cacaoadm` to check that DSCC agent is installed and running on port *port-number*.

このエラーは、Directory Server Control Center が通信する cacao プロセスの所有者がルート以外のユーザーである場合に表示され、Directory Server Control Center が実行中であっても表示されます。

解決方法: パッチ 123896-14 (x86) または 123893-04 (sparc) またはそれ以降をインストールします。

Monitoring Console のインストールに関する問題点

ほかの Java ES コンポーネントと同じホストに Monitoring Console をインストールできない (6441664)

Java ES インストーラでは、Sun Java System Monitoring Console とともにインストールするコンポーネントを任意に、またはすべて選択できます。ただし Monitoring Console には、監視対象のコンポーネントと同じホスト上に、または同じ Solaris ゾーン内にインストールされたときには動作しないという制限があります。Monitoring Console をほかのコンポーネントとともに選択した場合、インストールは失敗しますが、Monitoring Console を設定して実行することはできません。

解決方法: ほかの Java ES コンポーネントがインストールされていない専用のホストに Monitoring Console をインストールします。インストーラの実行中、ほかのコンポーネントをインストールするとき、Monitoring Console をインストール対象として選択しないでください。詳細は、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「To Install the Monitoring Console with the Java ES Installer」の手順を参照してください。

別の方法として、Solaris 10 オペレーティングシステムを使用してローカルゾーン内に専用の論理ホストを作成することにより、ほかの Java ES コンポーネントと同じ物理マシン上に Monitoring Console をインストールできます。詳細は、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「To Install the Monitoring Console in a Solaris Zone」の手順を参照してください。

以前に Monitoring Console をインストールして設定したホストに Java ES コンポーネントをインストールする場合は『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「To Unconfigure the Monitoring Console」の手順に従ってください。

Monitoring Console はデフォルトの場所にインストールする必要がある (6471270)

Monitoring Console がデフォルトの場所にインストールされていないと、Web コンソールが Monitoring Console を見つけられないため、起動できません。

解決方法: Monitoring Console のインストール時にデフォルト以外の場所を指定しないでください。

インストーラが **Monitoring Console** を自動的に設定しない (6488160 に関連)

Sun Java System Monitoring Console のインストール後、Java ES インストーラは Monitoring Console を自動的に設定および起動しません。

解決方法: インストール後に Monitoring Console を設定および起動するためのコマンドを手動で実行する必要があります。『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「Installing the Monitoring Console」の手順を参照し、続いて『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「Starting the Monitoring Console」の手順を参照してください。

Portal Server のインストールに関する問題点

Windows で、Portal Server が配備プラットフォームとして使用されない (バグ番号なし)

Microsoft Windows で、Portal Server は評価プラットフォームまたは開発プラットフォームとしてのみ使用できます。配備プラットフォームとしては使用できません。

Windows で、Java ES インストーラが有効な Portal Server インストール環境を生成しない (バグ番号なし)

Java ES インストーラを使用して Microsoft Windows に Portal Server をインストールした場合、得られるインストール環境は正しく機能しません。

解決方法: Windows に Portal Server をインストールするときは、Java ES インストーラを使用しないでください。代わりに、Portal Server 7.1 アップデート 1 を Sun ダウンロードセンター (<http://www.sun.com/download/products.xml?id=465e130d>) からダウンロードします。ダウンロードに付属している ReadMe ファイルの指示に従って、Portal Server の機能するインストール環境を生成します。

Windows で、DHCP で逆検索が設定されていないと PS-SRA、FTP、および Netlet が機能しない (6472391)

Netlet で IP アドレスを使用する場合、DHCP サーバーで特定のホストの逆検索エントリが設定されていないと、そのホストに関連する操作を実行できません。

たとえば、`nslookup.exe ipaddress` がホスト名を返すことに失敗する場合、それらの IP アドレスに対する Netlet 操作は実行できません。

解決方法: IP アドレスではなく、ホスト名を使用します。

インストール後に **Mobile Access** にログインできない (6437280)

この問題は、Access Manager Web アプリケーションの web.xml ファイルで、AMLCControllerFilter フィルタのフィルタエントリがコメントアウトされていることが原因で発生します。

解決方法: Access Manager Web アプリケーションの web.xml ファイルで、AMLCControllerFilter フィルタエントリのコメントを解除します。

デスクトップ上で、**iFrame** プロバイダのヘルプファイルリンクが機能しない (6199105)

SampleIFrame Channel からヘルプアイコンをクリックすると、「HTTP Status 404 — /portal/docs/en/desktop/iframechann.htm is not available」と表示される。

解決方法: なし。iFrame プロバイダにはヘルプファイルは提供されていません。

Portal Server のインストールおよびアンインストールが、ハングアップしているように見える (5106639、6350387)

Portal Server のインストールおよびアンインストール時に、インストーラおよびアンインストーラがハングアップしているように見えます。

解決方法: 明らかに停止しているように見える場合でも、無視して Portal Server インストールまたはアンインストール処理の完了まで待機します。ローエンドのシステムでは、処理の完了に最大で 45 分かかる場合があります。

Portal Server Secure Remote Access のマルチセッションインストールで、「アクセスホスト」が検証されない (6592103)

Portal Server をあるインストーラセッションでインストールし、次に Portal Server Secure Remote Access を後続のインストーラセッションでインストールする場合、インストーラは後続セッションの「Portal Server: Secure Remote Access: Portal へのアクセスの設定」ページで指定した「アクセスホスト」の値を検証しません。

解決方法: なし。

Portal Server Secure Remote Access のマルチセッションインストールで、「ログのユーザーパスワード」が検証されない (6592140)

Portal Server をあるインストーラセッションでインストールし、次に Portal Server Secure Remote Access を後続のインストーラセッションでインストールする場合、インストーラは後続セッションの「Portal Server: Secure Remote Access: Portal へのアクセスの設定」ページで指定した「ログのユーザーパスワード」の値を検証しません。

その結果、portal.fabric ログには、PSFB_CSPFC0312: Incorrect LogUserPassword Entered および PSFB_CSPFC0189: Validation of gateway Data Failed などのエラーが含まれます。

解決方法: なし。

Sun Cluster のインストールに関する問題

インストーラが Solaris 9 アップデート 6 上では適用されないパッチを要求する (6315304)

x86 プラットフォーム用の Solaris 9 アップデート 6 上に Sun Cluster 10 をインストールすると、アップデート 6 には適用されないパッチ (patch 117714-06) が要求されるため、インストールが失敗します。

解決方法: なし。x86 プラットフォームで Sun Cluster は、Solaris 9 アップデート 7 またはそれ以降が必要です。

Solaris 10 を実行している x86 マシンがクラスタモードへの移行に失敗する (6299971)

Solaris ブートアーキテクチャプロジェクトに関して行われた変更が原因で、Solaris 10 を実行している x86 マシンがクラスタモードへの移行に失敗します。マシンの起動時に次のエラーメッセージが表示されます。

```
Use is subject to license terms.
NOTICE: Can't open /etc/cluster/nodeid

NOTICE: BOOTING IN NON CLUSTER MODE
NOTICE: NO PCI PROP
NOTICE: NO PCI PROP
Configuring devices.
Hostname: pvyom1
devfsadm: minor_init failed for module /usr/lib/devfsadm/linkmod/SUNW_scmd_link.so
Loading smf(5) service descriptions: 24/24
/usr/cluster/bin/scdidadm: Could not load DID instance list.
Cannot open /etc/cluster/ccr/did_instances.
Not booting as part of a cluster
/usr/cluster/bin/scdidadm: Could not load DID instance list.
Cannot open /etc/cluster/ccr/did_instances.
Note: path_to_inst might not be updated. Please 'boot -r' as needed to update.
```

解決方法: 次の手順を実行します。

1. /boot/solaris/filelist.ramdisk に /etc/cluster/nodeid を追加します。

2. 次のコマンドを入力します。

```
# bootadm update-archive  
# reboot -- -r
```

すべてのノードが同時に起動する場合に16ノードクラスタを形成できない(6320429)

16ノードクラスタのすべてのノードを同時に起動しようとする、ノードパニックが発生し、ノードが定足数を待機してハングアップします。

このバグは、プライベートインターコネクトスイッチの誤った設定が原因で発生していました。Sun Cluster プライベートインターコネクトに使用されるスイッチポートについて、スパニングツリーを無効にする必要があります。16ノードクラスタ上ではスイッチに対してこの処理が行われず、このバグの原因となっていました。このバグのため、クラスタをオンラインにすることができません。

この問題を解決するには、Sun Cluster プライベートインターコネクトに使用されるスイッチポートについて、スパニングツリーを無効にする必要があります。

解決方法: なし。

Sun Cluster のローカライズ版パッケージのインストールで警告メッセージが表示される(6338473)

Sun Cluster のローカライズ版パッケージのインストール中に、次の警告メッセージが Java ES インストールログに表示されます。ローカライズ版パッケージの名前は SUNW*scspmu です。この警告メッセージは、ローカライズ版コンポーネントをインストール対象として選択していない場合には表示されません。

```
Warning: smreg is obsolete and is preserved only for  
compatibility with legacy console applications. Use wadmin  
instead.
```

```
Type "man wadmin" or "wadmin --help" for more information.
```

この警告は、Sun Cluster のローカライズ版パッケージが、Sun Java(TM) Web コンソール 3.x の新しいコマンドである wadmin ではなく smreg コマンドを使用していることが原因で生成されます。このメッセージは、Sun Cluster のインストールを完了するために別の手順を実行する必要があることを暗示するため、ユーザーに誤解を与える可能性があります。

解決方法: この警告はインストールエラーによって生成されるものではありません。この警告メッセージは無視しても安全です。

Sun Cluster HA Application Server Agent が Application Server 8.1 および HADB 8.1 をサポートしない (6212333)

インストーラには、Sun Cluster HA Application Server Agent を Application Server および HADB 8.1 とともにインストールするかどうかを選択できるオプションがあります。しかし、HA Application Server Agent は Application Server と HADB 8.1 をサポートしません。結果的に、HA Application Server を設定することができません。

解決方法: HA Application Server Agent を Application Server および HADB 8.1 とともにインストールしないでください。

以前のバージョンの Directory Server 用の Sun Cluster データサービス (バグ番号なし)

Java ES 2005Q1 には、Sun Java System Directory Server 5 2004Q2 用の Sun Cluster データサービスが含まれています。Sun Java System Directory Server 5.0 か 5.1、または Netscape HTTP、バージョン 4.1.6 用の Sun Cluster データサービスが必要な場合は、Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 リリースで入手できます。このリリースを入手する場合は、ご購入先のカスタマサポートの担当者に連絡してください。

Oracle Parallel Server/Real Application Clusters 用の Sun Cluster データサービスが、Sun Cluster 3.1 CD からインストールされない (バグ番号なし)

代わりに、Java Enterprise System 1 Accessory CD、Volume 3 からインストールされます。また、データサービスはエージェント CD からインストールされません。代わりに、Java Enterprise System 1 Accessory CD、Volume 3 からインストールされます。

Sun Cluster Agent がシステムに存在している場合、インストーラが Sun Cluster Agent の追加インストールを許可しない (バグ番号なし)

Java Enterprise System インストーラの実行前に Sun Cluster Agent がインストールされていると、インストーラが Agent の追加インストールを許可しません。

解決方法: pkgadd を使用して、追加の Sun Cluster Agent をインストールします。

Web Server のインストールに関する問題点

Windows で、評価モードで設定が正常に完了したあと **Web Server** サービスが開始されない (6472285)

Windows に eval config モードで Web Server をインストールしたあと、Web Server サービスが自動的に開始されません。

解決方法: Web Server サービスを手動で開始します。

Web Server インストールディレクトリに以前にインストールしたバージョンのファイルが格納されている場合、**Web Server** のインストールは失敗する (バグ番号なし)

解決方法: すべての設定ファイルをバックアップします。その後、インストールディレクトリを削除してから、Java Enterprise System インストーラを使用して Web Server をインストールします。

CLI モードで、**Web Server** のインストール時に範囲外のポートを指定すると、紛らわしいメッセージが生成される (6592653)

Web Server を CLI モードでインストールしているときに範囲外のポート値を指定すると、次の紛らわしいメッセージが表示されます。

```
EntSysResources:webServerInstancePanel -OutOfRangeAdminPort -Error -CLI
```

解決方法: なし。

Web Proxy Server のインストールに関する問題点

評価モードで設定が正常に完了したあと **Web Proxy Server** サービスが開始されない (6472289)

Windows オペレーティングシステムに eval config モードで Web Server をインストールしたあと、Web Proxy Server サービスが自動的に開始されません。

解決方法: Web Proxy Server サービスを手動で開始します。

アップグレードに関する問題

『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』では、Solaris および Linux プラットフォームで Java ES 5 Update 1 をアップグレードするための手順を説明しています。次の節では、『アップグレードガイド』で扱われていない状況で発生する問題点について解説します。『アップグレードガイド』を代替するものではないため、必ずこのガイドと組み合わせて使用してください。

『アップグレードガイド』および次の節で解説する問題点はともに、Java ES のリリースをリリースバージョンおよびリリース番号で参照しています。次の表は、リリースバージョンとリリース番号の関係を示しています。

リリースバージョン	リリース番号
Java ES 5 Update 1	リリース 5 アップデート 1
Java ES 5	リリース 5
Java ES 2005Q4	リリース 4
Java ES 2005Q1	リリース 3
Java ES 2004Q2	リリース 2
Java ES 2003Q4	リリース 1

アップグレードに関する問題点

Access Manager の pre61to62upgrade スクリプトが DB に基づくロギングを正しく処理できない (5042233)

バージョン 6.1 からバージョン 6.2 への Access Manager のアップグレード完了後、アップグレードログに DB ベースのログが適正に処理されなかったことが示されます。

解決方法: なし。バージョン 6.1 からバージョン 6.2 への Access Manager のアップグレード処理では、DB ログテーブルのバックアップはサポートされていません。

ほかのコンポーネントが Java ES 5 Update 1 にアップグレードされたあとに Application Server で JSP コンパイルエラーが発生する (6388329)

リリース 3 またはリリース 4 の Application Server (バージョン 8.1) を実行しているシステム上で、いずれかの Java Enterprise System コンポーネントを Java ES 5 Update 1 にアップグレードしたあとに JSP ページをコンパイルすると、Application Server がエラーを報告します。

解決方法: Application Server を Java ES 5 Update 1 にアップグレードするか、次のパッチを Application Server 8.1 に適用します。

- Solaris の場合: 119166-17
- Linux の場合: 119168-17

Solaris および Linux で、Portal Server のアップグレードが失敗する — /opt/SUNWappserver7/bin/asadmin が見つからない (6313972)

解決方法: この問題に関する最新のアップグレード資料については、次のマニュアルを参照してください。『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』

Linux で、Java ES 3 から Application Server をアップグレード後、Access Manager が処理を停止する (6447925)

Linux で Application Server を Java ES 3 からアップグレードしたあと、Access Manager は処理を停止し、amlcontroller の起動エラーが発生したことが server.log ファイルに示されます。

解決方法: sun-jss (JSS 4) および sun-jss3 を手動でインストールします。

1. コマンド `rpm -qa | grep sun-jss` を入力して、sun-jss および sun-jss3 が存在するかどうかをチェックします。
2. sun-jss が見つからない場合は、手動で追加します。

```
rpm -Uvh download-root/Linux_x86/Product/shared_components/Packages/sun-jss-4.2.4-4.i386.rpm
```

3. sun-jss3 が見つからない場合は、手動で追加します。

```
rpm -Uvh download-root/Linux_x86/Product/shared_components/Packages/sun-jss3-3.1.11-1.i386.rpm
```

英語以外のロケールで Portal Server 7.1 のアップグレード後、一部のポータルアプリケーションが正しく動作しない (6569515)

パッチを使用して Portal Server 7.1 を Portal Server 7.1 アップデート 2 にアップグレードすると、英語以外のロケールで psupdate の実行後に、ポータル関連の各種 Web アプリケーションが正しく動作しないことがあります。

解決方法: psupdate スクリプトを英語ロケールで再実行します。

1. `$LC_ALL` および `$LANG` シェル変数の現在の値を表示してメモします。

```
echo $LC_ALL
echo $LANG
```

2. これらの変数を英語ロケール用の値に設定します。

```
export LC_ALL=en_US.UTF-8
export LANG=en_US.UTF-8
```

3. psupdate スクリプトを再実行します。

```
psupdate -a -i
```

4. \$LC_ALL および \$LANG の値を復元します。

```
export LC_ALL=value-noted-in-step-1
export LANG=value-noted-in-step-1
```

Web Server および Portal Server には、特別なアップグレードの依存関係がある (バグ番号なし)

Java ES 5 Update 1 にアップグレードしている Web Server のバージョンへ Portal Server が配備された場合は、Portal Server もアップグレードする必要があります。

注 - Windows では Portal Server を Java ES 5 Update 1 にアップグレードする方法がないため、Web Server のアップグレード時に Portal Server をアップグレードすることもできません。代わりに、Web Server のアップグレードを試みる前に、Portal Server を移行して Application Server をコンテナとして使用できるようにする必要があります。

Web Server に配備された Portal Server 7.0 のアップグレード順序が通常と異なる (6507069)

Web Server に配備された Portal Server IFR (Interim Feature Release) 7.0 2005Q4 をアップグレードするとき、標準と異なる順序でコンポーネントをアップグレードする必要があります。詳細は、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Upgrade Guide for UNIX』を参照してください。

Web Server に配備された Portal Server 7.0 をアップグレードすると、新しいコミュニティを作成できない (6562802)

Portal Server 7.0 および Web Server をアップグレードすると、Portal Server コンソールで新しいコミュニティを作成しようとするとエラーが発生します。

解決方法: 次の手順を実行します。

1. Web Server の管理コンソールにログインします。
2. 「構成」をクリックします。
3. 実行している Portal Server インスタンスの構成を選択します。
4. 「Java」タブをクリックします。
5. 「クラスパスのプレフィックス」のパス設定を確認します。
6. /opt/SUNWcacao/lib/cacao_cacao.jar を /usr/lib/cacao/lib/cacao_cacao0.jar で置き換えます。

7. 変更を保存し、管理コンソールを終了します。

開発者サンプル内ですでに存在するコミュニティーが **Portal Server 7.0** のアップグレード後に使用できない (6591992)

Portal Server 7.0 をアップグレードすると、開発者サンプル内に存在するコミュニティーを使用できなくなります。

解決方法: ファイル

`/var/opt/SUNWportal/portals/portal1/desktop/default/SearchProvider/dbMenu.jsp` を次のように変更します。

```
古いエントリ:      com.sun.portal.desktop.util.OrderedMap dbs =
                    (com.sun.portal.desktop.util.OrderedMap)pageContext.findAttribute(
                    "availableDatabases");

新しいエントリ:   java.util.Map dbs = (java.util.Map)pageContext.findAttribute(
                    "availableDatabases");
```

Instant Messaging と組み合わせて有効にする場合に **Monitoring Framework 1.0** をアップグレードする必要がある (6515859)

Java ES 2005Q1 または 2005Q4 で Instant Messaging の監視機能を有効にした場合、Java ES 5 Update 1 にアップグレードしたあとで、プロパティファイルを手動でアップグレードする必要があります。

解決方法: 特定のホスト上で Instant Messaging インスタンスをアップグレードしたあとで、新しい `mfwk.properties` ファイルを編集し、古い `agent.properties` ファイルから保持する設定パラメータを含めます。

x86 用の Solaris 9 で **Java ES 3** をアップグレードするとき、**2 つのバージョンの cacao** が実行中の場合は **psupgrade** が失敗する (6550198)

x86 用の Solaris 9 で Java ES 3 をアップグレードするときに、2 つのバージョンの cacao が実行中である可能性があります。Instant Messaging に対応する Java ES 3 バージョンと、アップグレードしたコンポーネントに対応する Java ES 5 Update 1 バージョンです。このような場合、Portal Server のアップグレードに使用する psupgrade スクリプトが失敗します。

解決方法: psupgrade スクリプトを実行する前に、Java ES 3 バージョンの cacao を停止します。

```
/opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm stop
```

psupgrade を実行後、Java ES 3 バージョンの cacao を再起動します。

```
/opt/SUNWcacao/bin/cacaoadm start
```

Windows で、「インストール後に手動で設定」オプションを指定したアップグレードで「**Message Queue**」と「高可用性」は作成されるが「**Application Server**」プログラムグループが作成されない (6500958)

「インストール後に手動で設定」モードで製品コンポーネントをインストールまたはアップグレードすると、製品のショートカットが、その製品を手動で設定するまで作成されません。

注 - Message Queue はこの問題の影響を受けません。

解決方法: なし。

監視に関する問題点

この節では、Monitoring Console および Monitoring Framework における既知の問題点について説明します。Monitoring Framework は、監視を有効にするためにほかのコンポーネントとともに自動的にインストールされる共有コンポーネントです。

監視に必要なパッチ

Monitoring Framework における特定の既知の問題を回避するために、次のパッチが必要です。これらのパッチは通常、Java ES に必要なほかのパッチバンドル、または Solaris オペレーティング環境の更新されたバージョンに含まれています。ただし、Java ES 製品コンポーネントを監視するホスト上で、これらのパッチまたは代替パッチの存在を確認することをお勧めします。

表 1 Solaris オペレーティング環境を監視するためのパッチ

Solaris のバージョン	パッチ番号
Solaris 9 SPARC プラットフォーム (バージョン s9u7_06 およびそれ以前)	114344-17
Solaris 9 i386 プラットフォーム (バージョン s9u7_06 およびそれ以前)	114345-08 (非推奨。現在の推奨パッチは 117172-17)、118559-28 (またはそれ以降)

表1 Solaris オペレーティング環境を監視するためのパッチ (続き)

Solaris のバージョン	パッチ番号
Solaris 10 SPARC Platform (バージョン s10_58 およびそれ以前)	114344-17
Solaris 10 i386 プラットフォーム (バージョン s10_58 およびそれ以前)	114345-08 (非推奨。現在の推奨パッチは 117172-17)、118855-15 (またはそれ以降)

HP-UX オペレーティングシステムの場合、監視に必要なパッチは12 ページの「HP-UX の要件と問題点」で説明するパッチに含まれています。

Monitoring Console インタフェースに関する問題点

検証される新しいホスト証明書が表示されない (6467360)

監視対象の新しいホストを追加する場合、Monitoring Console は SSL を使用して接続をセキュリティー保護しますが、選択されたホストで示された証明書を表示しません。Monitoring Console はホストのルートパスワードをノードエージェントに送信するため、対象ホストの IP アドレスを偽造し、パスワードを受信する攻撃者に対する脆弱性があります。ノードエージェントの大半は、すでにセキュリティー保護されたネットワーク内で動作するホストで実行されているため、この状況が発生するリスクは非常に低くなります。

解決方法: ノードエージェントホストがセキュリティー保護されたネットワーク内で動作していない場合は、これらのホストを Monitoring Console に新規ホストとして追加する前に、信頼性を検証します。ホストの信頼性を検証するには、ホストにログインし、ホストの構成とファイルシステムを認識できることを確認します。UNIX ホストの場合は、ssh でログインし、証明書情報を表示します。

Application Server がアプリケーションインスタンスを指す (6495539、6388513)

製品に含まれるオブジェクトが、Monitoring Console で「アプリケーションサーバー」として表記されています。この用語を Sun Java System Application Server と混同しないでください。

解決方法: Monitoring Console のコンテキストにおける「アプリケーションサーバー」は、インストールされた Java ES コンポーネントの実行中のインスタンスを指します。

Monitoring Console の応答時間が遅い (6490794、6438443)

Monitoring Console でのページの表示と切り替えに 30 秒ほどかかる場合があります。

解決方法: 高速なプロセッサと多くのメモリーを搭載した、ほかのアプリケーションを実行していないホスト上で Monitoring Console を実行します。

特定のコンポーネントの監視を無効にする簡単な方法がない (6446505)

Monitoring Console では、コンポーネント単位で監視を有効または無効にすることができません。

解決方法: 各コンポーネント独自の機構を通じ、コンポーネントの監視を有効化、および無効化する必要があります。手順については、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の第2章「Enabling and Configuring the Monitoring Framework」のコンポーネント固有のセクションを参照してください。

監視対象コンポーネントが停止されても、コンソールに反映されないことがある (6487785)

監視対象コンポーネントがクラッシュしたり、通常の操作によって停止されたりすると、監視対象オブジェクトがノードエージェントから削除されず、Monitoring Console の左側のツリーで表示されたままになります。同様に、ノードエージェント全体を停止すると、ホストノードが左側のツリーから削除されないことがあります。この問題は断続的に発生します。

解決方法: サーバーインスタンスを停止または再起動するとき、ノードエージェント、マスターエージェント、および Monitoring Console も再起動しなければならないことがあります。ホストとノードエージェントを停止した場合、マスターエージェントと Monitoring Console を再起動しなければならないことがあります。『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「To Restart a Node Agent」の手順は、その両方を行う方法を説明しています。

監視ルールとアラームがホストとともに削除されない (6474032)

Monitoring Console からホストを削除するとき、監視対象コンポーネントと関連付けられた監視ルールおよびアラームは自動的に削除されません。そのため、同じホストが再度追加されても、ルールとアラームの状態が持続します。

解決方法: 同じホストを再度追加しない場合は、「ルール」ダイアログを使用し、そのホストに関連するすべてのルールを検索し、削除します。ホストが削除されたときに発生しているアラームが確認されることがありますが、これは Monitoring Console に残ります。アラームをトリガーした監視対象の属性にはアクセスできなくなるためです。アラームを確認状態のまま残しておかないためには、監視対象コンポーネントのすべてのアラーム状態を解決し、ホストを削除する前に Monitoring Console のアラームを確認します。

スケジュール間隔が設定されているときに、監視ルールの「無効化」ボタンが機能しない (6513968)

ルールにスケジュール間隔が設定されている場合、そのルールを無効にすることはできません。

解決方法: ルールを無効にするのではなく、削除します。

Monitoring Console に関する重大度の低い問題

次の一覧は、Monitoring Console で確認されているその他の既知の問題を示しています。

6366190	複数のテーブルがデフォルトでソートされない
6375583	インストール済み製品を使用するオブジェクトからリンクされたホストが不明なオブジェクトになっている
6388558	AppServer プラグインの使用時に、サーバーに含まれるオブジェクトに孫のオブジェクトが含まれているが、これは適切でない
6390983	ホストのテーブルで機能の有効化および無効化が正しく機能しない
6396891	「統計」および「設定」オブジェクトに対してはキャプションおよび説明フィールドが表示されるが、ベースオブジェクトに対しては表示されない
6495587	オブジェクトを選択して「監視ルール」、「新規作成」の順にクリックしたときに、ユーザーがオブジェクトをもう一度選択しなければならないが、これは適切ではない
6405363	特定のホストに対して一覧表示される JVM オブジェクトの名前が一貫していない
6405949	Application Server によって作成される CMM_Cluster オブジェクトがどこにも表示されない
6412408	「新しいルール」ダイアログの監視可能オブジェクトのリストが明瞭でない
6429231	Portal Server、Web Server、および Application Server オブジェクトのオブジェクトおよび動作ステータスが不明として表示される
6388513	Application Server で配備される Enterprise JavaBeans の名前が説明的でない
6434184	Application Server 監視オブジェクトで属性の名前が使用できない

6434241	Application Server の内部設定の変更が Monitoring Console に反映されない
6446325、6496542	Monitoring Console は、ドメイン表示を公開できなければならない
6515039	de ロケールで、オンラインヘルプの索引が英語版と一貫性がない
6572284	「選択されたオブジェクトを表示」が設定されていると「次のステータスを持つオブジェクトを表示」機能が動作しない
6581977	スクリプトのエラーで、ルールからスケジュール間隔の削除ができない
6592561	JVM-General テーブルで一部の文字列がローカライズされていない
6593147	スペイン語のユーザーインタフェースで、著作権の文字列がローカライズされていない
6594741	Monitoring Console のユーザーインタフェースで多くの文字列がローカライズされていない
6581987	ルールのスケジュール間隔を 0:00 から 0:00 に変更すると、ルール自体が削除される

Monitoring Framework に関する問題点

Linux 上で C コンポーネントの監視パフォーマンスが低速である (6332884)

Monitoring Framework とのインタフェースを C ライブラリに依存するコンポーネントは、Linux オペレーティング環境で動作するときに Monitoring Console での表示が遅くなる場合があります。

解決方法: なし。

C コンポーネントとノードエージェントの通信がセキュリティー保護されない (6405037)

C ライブラリに依存するコンポーネントと、同じホスト上のノードエージェント間のプロセス間通信はセキュリティー保護されません。デフォルトでは、通信はループバックインタフェースを使用してセキュリティーリスクを軽減します。

解決方法: なし。

Java コンポーネントの **SNMP** パフォーマンスが低速である (6437945)

Monitoring Framework とのインタフェースを Java ライブラリに依存するコンポーネントでは、SNMP 経由でのアクセス時にパフォーマンスの問題が発生する場合があります。

解決方法: なし。

Solaris 9 上でノードエージェントが監視対象コンポーネントを検出できない (6504230)

Solaris 9 のバグが原因で、宛先が IPv4 アドレスであるパケットが IPv6 ソケット上のリスナーに配信されません。これにより、ノードエージェントと、そのホスト上の監視対象コンポーネントの間で検出メカニズムが遮断されます。

解決方法: 次のコマンドを使用して、ノードエージェントの JVM に強制的に IPv4 ソケットを待機させます。

```
cacaoadm stop
oldvalue=$(cacaoadm get-param java-flags --value)
cacaoadm set-param java-flags="${oldvalue} -Djava.net.preferIPv4Stack=true"
```

次に、ノードエージェント、マスターエージェント、および Monitoring Console を、『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「To Restart a Node Agent」で示す手順で再起動します。

クロックの同期ずれによりホストを **Monitoring Console** に追加できない (6487357)

ノードエージェント上の時刻と、マスターエージェントホスト上の時刻のずれが大きすぎる場合、Monitoring Console でのそのノードの追加は失敗します。マスターエージェントの Monitoring Framework のエラーログには、「JRMP 接続確立中の」重大なエラーが報告されます。

解決方法: 両方のホストで時刻が同期するように設定します。

HP_UX: 過剰な並行監視ルールにより、例外が発生する (6481758)

HP-UX オペレーティングシステムのノードエージェントで、多数の監視ルールが並行的に作成されると、Java 仮想マシン (JVM) のスレッド数がカーネルパラメータの上限を超え、OutOfMemory 例外が発生することがあります。

解決方法: 『Sun Java Enterprise System 5 Update 1 Monitoring Guide』の「To Optimize Kernel Parameters for Monitoring Framework on HP-UX」で示すように、HPjconfig ツールをダウンロードし、実行します。

Windows で、mfwkadm がエラーを生成する (6535233)

Windows で mfwkadm コマンドを実行すると、次のエラーが生成されます。

```
'C:\Program' is not recognized as an internal or external command,  
operable program or batch file.
```

解決方法: ファイル C:\Program Files\Sun\JavaES5\share\mfwk\bin\masetup.bat の 4 行目で、行頭に REM を追加してコメントにします。

```
編集前:          if defined MFWK_PATH goto perl_cmd  
編集後:          REM if defined MFWK_PATH goto perl_cmd
```

Monitoring Framework に関する重大度の低い問題

次の一覧は、Monitoring Framework で確認されているその他の既知の問題を示しています。

6356355 Linux で、IPv6 が有効なときに、検出が機能しない

アンインストールに関する問題点

アンインストール全般の問題点

Windows で、「アンインストール完了」パネルの「アンインストールログの表示」ボタンでログファイルが表示されない (6505473)

インストールをリモートセッションで実行すると、インストーラのログが temp ディレクトリに保存されます。

インストールまたはアンインストール中にシステムのリポートが発生すると、temp は削除されます。そのため、「アンインストールログの表示」ボタンをクリックしてもログファイルが表示されません。

解決方法: なし。

Windows で、一部の Java ES パッチをアンインストールするために Sun Java(TM) Enterprise System 5.msi が必要 (6594140)

一部の Java ES 5 Update 1 パッチをアンインストールしようとする時、Sun Java(TM) Enterprise System 5.msi が元のインストール場所である C:\t\Windows 内にはないことを示すエラーメッセージが表示されます。

解決方法: Java ES 5 をダウンロードし、エラーメッセージに示されたインストール場所に解凍します。Java ES パッチをアンインストールしたら、ダウンロードして解凍したファイルは削除できます。

Access Manager のアンインストールに関する問題点

アンインストール中に Access Manager の監視モジュールが登録解除されない (6360971、6369681)

Access Manager をアンインストールするとき、その監視モジュール記述子が登録解除されません。この問題は、Access Manager がアップグレードしたあとでのみ発生します。

解決方法: cacaoadm を使用して、com.sun.cmm.am 記述子を登録解除します。

1. com.sun.cmm.am 記述子の存在を確認します。

```
# cacaoadm list-modules
List of modules registered:
com.sun.cacao.agent_logging 1.0
...
com.sun.cmm.am 1.0
...
```

2. 記述子を登録解除します。

```
# cacaoadm unregister-module com.sun.cmm.am.xml
```

3. cacao を再起動します。

```
cacaoadm restart
```

4. com.sun.cmm.am が登録解除されたことを確認します。

```
# cacaoadm list-modules
List of modules registered:
```

com.sun.cacao.agent_logging 1.0

...

(com.sun.cmm.am 1.0 が登録済みモジュールの一覧に存在しないことを確認してください。)

パッチ情報

Sun では Java ES 5 のリリースから、Java ES コンポーネントのパッチを検索し、ダウンロードして適用するタスクを簡略化するために、持続性のある新しいモデルを採用しています。このモデルは2つの基本機能で構成されます。

- すべての Java ES コンポーネントに対する最新の適切なパッチを含んだパッチクラスタ
- キーワードによる個別のコンポーネントパッチへのタグ付け

パッチクラスタ: Java ES がサポートするプラットフォームごとに、Java ES 5 で提供されるコンポーネントのバージョンに対応した最新パッチを含んだパッチクラスタをダウンロードできます。パッチクラスタには、コンポーネントを Java ES 5 Update 1 レベルにするパッチも含まれます。これらのパッチクラスタは、コンポーネントの新しいパッチが提供されるたびに随時更新されます。

これらのパッチクラスタを入手するには、次の手順に従います。

1. <http://sunsolve.sun.com> にアクセスします。
2. 「パッチやアップデート」をクリックします。
3. 「推奨パッチクラスタ」をクリックします。
4. 使用している OS のバージョンおよびプロセッサアーキテクチャーに該当する「Java ES Accumulated」で始まるパッチクラスタを探してダウンロードします。

キーワードによるタグ付け: Java ES 5 のリリース以降、Java ES リリースに含まれるすべてのコンポーネントバージョンに対するすべてのパッチは、パッチがその Java ES リリースに適用されることを示すキーワードを使用して README ファイルでタグ付けされます。Java ES 5 および更新リリースについては、キーワードタグは `java_es-5` です。このキーワードタグを利用すれば、SunSolve の PatchFinder 機能を使用して `java_es-5` キーワードを入力することにより、Java ES 5 および更新リリース用のすべての個別コンポーネントパッチをすばやく見つけることができます。

注 - Solaris 10 版の Java ES 用のパッチは Sun Connection を使用して入手することもできます。詳細は、<http://www.sun.com/service/sunconnection> を参照してください。

再配布可能なファイル

Sun Java Enterprise System 5 Update 1 の一部のコンポーネントには、ユーザーが再配布可能なファイルが含まれています。これらのファイルの詳細は、使用しているコンポーネントのリリースノートを参照してください。

Berkeley Database の使用に関する権利

この製品には、Oracle Corporation の製品である Berkeley Database のオブジェクトまたはソースコード、あるいはその両方が含まれています。Java Enterprise System または使用権限を与えられたその派生物とは別に Berkeley Database ソフトウェアを使用する場合は、追加のライセンス条項に従うものとします。

障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を手に入れるには、米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を Sun に請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。アプリケーションの最新バージョンは <http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> から入手できます。

アクセシビリティへの Sun の取り組みについては、<http://sun.com/access> をご覧ください。

Java ES 5 Update 1 のマニュアル

Java ES 5 Update 1 の製品マニュアルは、docs.sun.com から入手できます。

- リリースノート: <http://docs.sun.com/coll/1315.3>
- システムレベルのインストール、アップグレード、および計画に関するマニュアル: <http://docs.sun.com/coll/1286.3>
- コンポーネントごとのマニュアルのコレクション:
<http://docs.sun.com/prod/entsys.5>

さらに、その他の種類のマニュアルを BigAdmin 上の Java ES の情報ハブで探すこともできます。<http://www.sun.com/bigadmin/hubs/javaes>。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、次の付加的なリソースに関する情報を提供いたします。

- マニュアル (<http://www.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://www.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://www.sun.com/training/>)

Sun 製品資料の検索

Sun 製品マニュアルは docs.sun.comSM Web サイトで検索できるだけでなく、検索エンジンの検索フィールドに次の構文を入力することによっても検索できます。

検索語 site:docs.sun.com

たとえば、「ブローカ」を検索する場合は、次のように入力します。

ブローカ site:docs.sun.com

検索に java.sun.com、www.sun.com や developers.sun.com などほかの Sun Web サイトも含めるには、「docs.sun.com」の代わりに「sun.com」を検索フィールドに入力します。

サードパーティーの Web サイトの参照

サードパーティーの URL はこのマニュアル内で参照され、付加的および関連情報を提供いたします。

注-Sun は、このマニュアルに記載されている Sun 以外の Web サイトの可用性については一切責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースによって利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他のデータを承認することも、あるいはこれらに対して責任を負うこともありません。また、そのようなサイトまたはリソースによって利用できるコンテンツ、商品、サービスへの依存またはその使用によって生じる実際または疑いのある損害や損失に対しても一切責任を負いません。

コメントの送付方法

Sun ではマニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよび提案を歓迎いたします。コメントをお寄せいただく場合は、<http://docs.sun.com> にアクセスし、「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームには、マニュアルの完全なタイトルとパート番号を記載してください。Part No. は、マニュアルのタイトルページもしくは URL に記載されている、7桁または9桁の数字です。たとえば、このマニュアルの Part No. は 820-2940 です。

